編　集　後　記

令和元年を締めくくる本号も無事発刊に至りました．これもひとえに皆様からの精力的な研究・臨床成果をまとめた論文等の投稿並びにお忙しい中，論文の査読を快く引き受けていただいた先生方の賜物と衷心より感謝申し上げます．

さて，本号では歯学雑誌初の試みである本学他学部からの招待総説１編，総説２編，原著論文２編，症例報告２編並びに最近のトピックス３編のバリエーション豊かな投稿をいただきました．巻頭のリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の今井智子先生による招待総説では言語機能回復の現場からみた補綴治療の有用性について述べられており，臨場感あふれる多職種連携医療の実際に触れることができます．また，総説では，う蝕制御治療学分野のTubayesha先生から象牙質再生について，歯周歯内治療学分野のSarita先生からは上皮細胞間結合に関する最新の知見を提供していただいております．原著論文は，薬理学分野の石田成美先生とインドネシア大学の微生物学講座のCitra先生からの投稿です．石田先生からは硬組織透明化技術と共焦点レーザー顕微鏡を併用した新たな解析法について，Citra先生からはバイオフィルム形成に密接に関連する*Veillonella*菌種の北海道における地域特異性について報告されています．また，症例報告では，顎顔面口腔外科学分野の若林茉梨絵先生から導帯の炎症に起因する低位埋伏智歯症例について，臨床口腔病理学分野のAriuntsetseg先生からは上顎洞に発生した骨腫に関して報告されています．さらに，薬理学分野の根津顕弘先生，歯科麻酔科学分野の郷賢治先生並びに伊東歯科口腔病院の廣瀬知二先生からは，基礎研究手法，神経科学並びに終末期口臭対策に関連する最近のトピックスをそれぞれ紹介していただいております．いずれも大変興味深い内容ですので，是非ご一読ください．

令和２年はオリンピックイヤーです．図らずも北海道開催となったマラソン競技は，北海道民にオリンピックの息吹をさらに身近に感じさせてくれることでしょう．オリンピックマラソン開催記念誌（？）となる次号にむけて，歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので，今後ともご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします.（石井　記）

次号（第39巻，第１号）の発行は2020年６月30日です．
投稿原稿募集の締め切りは2020年３月31日必着と致します．期日厳守の上，ご投稿をお願いします．本誌投稿規定は，2019年第38巻，第２号の巻末をご参照ください．